

知っておきたい

# 暮らしてお金のいろは

第7回

**Q** 老後資金の準備があまりできていません。10年後にもらう退職金がありますが不安です。どのように準備するのが良いのでしょうか？  
(50代 男性)

**A** 「逆算の資産準備」を考え、60歳時点の必要資産を計算します。その上で、以後10年～15年は「運用」も視野に入れた資産形成をすることをお勧めします。

老後資金を計画的に準備するのは難しいですよね。定年までの期間が迫ってきている状況で必要なのは、「逆算の資産準備」です。

- ① 老後必要な生活費を計算(月額25万円×12×年数など)
- ② 年金と退職金を差し引き、不足金額を算出
- ③ 貯める、殖やす期間を75歳まで設定
- ④ 「貯蓄・運用」を組み合わせ、60歳～65歳までに運用原資を準備

「すべての必要資金を65歳までに準備したい」と言う方もいますが、残り時間が短いため、毎月の準備額が多額になってしまいます。60歳～65歳まで資産形成し、それ以降は「使いながら運用する」期間と考えることで、効率よく老後資金を準備できます。

最近では、新たな投資優遇制度「NISA」などで「運用」がより身近になってきていますが、「非課税」や「高利回り」などで始めるのではなく、まずは身近なファイナンシャルプランナーに相談して、しっかりとした「計画」を立てることをお勧めします。

日本株式	日本債権
世界株式	世界債権
分散投資	
逆算の資産準備のポイント	
【その1】 今後の収支状況を明確にする	
【その2】 「運用」による資産形成	
【その3】 50代～70代で資産運用	
【その4】 資産形成は「分散投資」が基本	

2014年1月現在の税制・税率に基づき作成しています。税制・税率は将来変更されることがありますので、ご注意ください。また、個別の税務に関する取扱いには、税理士または所轄の税務署にご確認ください。

協力 募集代理店(有)ファミリーライフクラモチ 大森 健一さん

独立系FP事務所(有)ファミリーライフクラモチ所属。AFP・住宅ローンアドバイザーの資格を活用し、セミナー講師・個別相談等を実施。

募集代理店(有)ファミリーライフクラモチ

〒浦市永国0970の1 ☎0120・1200060

